

＜学校関係者評価委員会＞

協議委員（学校関係者）7名
内部委員（教職員）10名

《目指す学校像》 全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
※達成度：A＝充分達成できた B＝概ね達成できた C＝変化の兆しが見られた D＝不十分であった

評価項目（目標）	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価・要望等
① 「至誠一貫」の精神に基づいた基本的生活習慣の確立と道德教育	a 声を出してきちんと挨拶ができるようにするための指導 →学校生活アンケート設問1で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問1で①②の回答率80%以上 b 公共の場でのマナーや周囲への配慮についての指導 →学校生活アンケート設問2で①②の回答率80%以上 c 相手の立場に立って考え、行動できるようにするための指導 →学校生活アンケート設問3で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問2で①②の回答率90%以上 d 日常的な時間管理、自己管理の指導 →学校生活アンケート設問4, 5, 6で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問3で①②の回答率80%以上 e 多面的、多角的、対話的な「道德」の授業の実践 →学校生活アンケート設問7で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問4で①②の回答率80%以上 f スマートフォン、SNSの適切な活用 →学校生活アンケート設問8で①②の回答率80%以上 g 人権意識を持った生活指導 →学校自己評価アンケート設問5で①②の回答率90%以上	a 挨拶についての①②の回答率 生徒94%、教員83% b 公共のマナーや周囲への配慮についての①②の回答率 95% c 相手の立場に立って考え行動することについての①②の回答率 生徒92%、教員83% d 日常の時間管理・自己管理についての①②の回答率 生徒 設問4 84% 設問5 83% 設問6 83% 教員65% e 道德の授業についての①②の回答率 生徒90%、教員78% f スマートフォン、SNSの適切な活用についての①②の回答率 81% e 人権意識を持った生活指導についての①②の回答率 教員87%	A	・公共の場におけるマナーについては生徒の自己評価と実態にやや乖離が見られる。校内外を問わず、規範意識のさらなる向上に向けたきめ細かな指導を継続しつつ、生徒自らが気付き、生徒同士で声を掛け合えるよう、自治活動の一層の充実を図りたい。 ・時間の遵守については昨年度より改善が見られるものの、生徒と教員間で達成度の認識に差があることから、時間のけじめや時間管理に関する指導をより具体的かつ継続的に行う必要がある。教員の意識向上を引き続き図り、生徒への定着につなげていきたい。 ・スマートフォンやSNSの適切な活用は、重要な生活指導の柱である。講演会や学年集会の取り組みを今後も継続しながら、低学年から一貫した指導を徹底し、トラブルの未然防止に努めていきたい。 ・生徒一人ひとりの人格を尊重した人権意識に基づく指導は、適切に行われている。また、道德の授業についても多くの生徒が心の成長に役立っていると実感しており、今後もその充実を図っていきたい。	・日常の指導の中で生徒に寄り添う姿勢が感じられるが、問題行動等が生じた際には背景要因を丁寧に捉え、理解を深めながら改善につなげていく姿勢を今後も大切にしてほしい。 ・ボランティア活動や生徒主体の取り組みは、生徒の自信や主体性を育てる上で有意義な機会となっている。活動の成果や課題を教職員間で共有しながら、取り組み内容や情報発信の仕方を工夫することで、より多くの生徒が意欲的に関わる機会の充実につながることを期待する。
② 奉仕の精神の育成と自治活動の実践	a 日常的な清掃活動への取り組み →学校生活アンケート設問9で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問6で①②の回答率90%以上 b 状況に応じたボランティア活動、自治活動への取り組み →学校生活アンケート設問10で①②の回答率60%以上 →学校自己評価アンケート設問7で①②の回答率70%以上	a 清掃活動についての①②の回答率 生徒92%、教員87% b ボランティア活動、自治活動等についての①②の回答率 生徒49%、教員70%	B	・清掃のポイントや役割分担をより明確に示し、共通理解を図ることで、環境整備の促進に努めたい。 ・ボランティア活動への参加については依然として個人差が見られる。身近な活動の紹介や情報提供を充実させ、参加者の事例を共有することで心理的なハードルを下げ、自発的な参加を促していきたい。	・SNSの普及など情報環境の変化を踏まえると、機器の操作やプログラミングに関する技能の習得だけでなく、情報モラルを養う指導も重要である。また、疑問が生じた際に安易に検索に依存するのではなく、他者に問いかけながら理解を深める姿勢を育むことも大切にしてほしい。
③ 保護者との連携	a 保護者との日常的な意思の疎通 →学校自己評価アンケート設問8で①②の回答率90%以上 b 保護者の意見に耳を傾け、期待に沿えるような努力 →学校自己評価アンケート設問9で①②の回答率90%以上	a 設問8の①②の回答率 96% b 設問9の①②の回答率 100%	A	・保護者とのコミュニケーションは良好に取られている。保護者会や面談への出席率も高く、学校教育への関心の高さが窺える。今後もこうした機会を大切にし、保護者との連携を一層深めるとともに内容の充実を図っていきたい。	
④ 学力向上を目指した各種取り組み	a 生徒個々の学習到達度を踏まえた補習等の実践 →学校自己評価アンケート設問10で①②の回答率80%以上 b 授業、宿題、課題への取り組み →学校生活アンケート設問11, 12, 13, 14, 15で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問11で①②の回答率80%以上	a 設問10の①②の回答率 78% b 授業、宿題、課題についての①②の回答率 教員96% 生徒 設問11 67% 設問12 58% 設問13 64% 設問14 74% 設問15 65%	B	・家庭学習の定着については依然として課題を抱えている生徒は少なくない。自習管理ツールの活用や面談を通して学習状況の把握と意欲の向上を図っているが、更なる工夫が求められる。課題の内容や分量の精査、習熟度に応じた段階的な提示を行うことで、生徒が達成感を得ながら継続的に取り組める環境作りを進めていきたい。	・コースごとの学習活動は学校の特色として根づきつつあり、生徒の学びへの関心を高める取り組みとして成果が見られる。高校段階の学習や進路選択につながる視点を意識するとともに、目標から逆算して計画を立て実行する力を育てる指導の一層の充実を期待する。
⑤ 授業や各種試験への取り組み	a 授業や各種試験、学習への取り組み →学校生活アンケート設問16, 17で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問12, 13, 14, 15で①②の回答率80%以上	a 学校生活アンケート①②の回答率 設問16 93% 設問17 73% 学校自己評価アンケート①②の回答率 設問12 87% 設問13 96% 設問14 87% 設問15 65%	A	・授業には大半の生徒が前向きに取り組んでいる一方、各種テストへの対策には依然として課題を抱えている生徒が一定数見られる。テストに向けた具体的な学習方法の提示や支援、計画的な学習の進め方や振り返りの指導を一層充実させる必要がある。	
⑥ コース別活動、リーダーズプログラムの実践と有効活用	a コース別活動の充実 →学校生活アンケート設問18で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問16で①②の回答率80%以上 b 「ワールドビュー」充実のためのはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問17で①②の回答率70%以上 c リーダーズカリキュラム、リーダーズプログラムの取り組み →学校生活アンケート設問19で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問18で①②の回答率80%以上 d 各種検定試験、コンテスト等への積極的な参加とはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問19で①②の回答率80%以上 e Chromebookの有効活用 →学校生活アンケート設問20で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問20で①②の回答率80%以上	a コース別活動の充実について①②の回答率 生徒85%、教員61% b 「ワールドビュー」充実について①②の回答率 22% c リーダーズカリキュラム、リーダーズプログラムについて①②の回答率 生徒70%、教員61% d 各種検定、コンテストへの参加についての①②の回答率 78% e Chromebookの有効活用についての①②の回答率 生徒91%、教員83%	B	・コース別活動への興味関心は昨年度より高まっており一定の成果が見られる。一方で、生徒がより前向きに取り組めるような声掛けや環境作りについては、教員間で課題意識も見られる。情報共有や役割分担の徹底を図るとともに、活動内容のさらなる充実に努めていきたい。 ・「ワールドビュー」については、生徒への働きかけに難しさを感じている教員が少なくない。指導方法や関わり方を見直し、教員間で実践事例を共有するなどして、活動の質を高めていきたい。 ・国際教育活動については、今年度イングランド研修を実施し、生徒にとって満足度の高い充実した研修となった。リーダーズプログラムの一層の体系化と内容の精査を図り、語学力の向上にとどまらない学びの深化につなげていきたい。	・企業訪問やリーダーズカリキュラム、国際理解に関わる取り組みなど、本校独自の教育活動は生徒の視野を広げる機会となっている。これらのプログラムを今後も充実させ、学校の魅力としてさらに発展させていくことを期待している。
⑦ Web サイト等を活用した学校関係者への情報発信	a ホームページや保護者向け連絡システム(Blend)の有効活用 →学校自己評価アンケート設問21で①②の回答率80%以上 b 生徒出欠席の管理や生徒メモの活用 →学校自己評価アンケート設問22で①②の回答率80%以上	a 設問21で①②の回答率 87% b 設問22で①②の回答率 83%	A	・ホームページの更新やBlendを活用した保護者への連絡配信の回数が増加し、情報提供の充実が図られている。今後は外部への発信も意識し、本校の取り組みを積極的に広く伝えていきたい。	